



The Heart of Industry

IWAKI

2018年3月期 第2四半期決算説明資料

2017年11月29日

株式会社イワキ

証券コード：6237
銘柄名：イワキポンプ

目次

I. 2018年3月期第2四半期決算概要	・・・P 3
II. 2018年3月期業績の見通し	・・・P12
III. 第一期～第二期中期経営計画について	・・・P17
IV. 参考情報	・・・P28





2018年3月期第2四半期決算概要

(百万円)

	2017/3期 2Q	2018/3期 2Q		2018/3期2Q 予算
		金額	前期比	
売上高	12,394	13,435	+8.4%	13,075
売上総利益	4,025	4,516	+12.2%	4,395
(粗利率)	(32.5%)	(33.6%)	(+1.1pt)	(33.6%)
営業利益	771	1,015	+31.6%	767
(営業利益率)	(6.2%)	(7.6%)	(+1.3pt)	(5.9%)
経常利益	1,086	1,354	+24.7%	923
親会社株主に帰属する 四半期純利益	779	1,016	+30.4%	647
1株当たり 四半期純利益(円)	104.12	135.78		86.45
為替レート (期中平均)	ドル	111.74	112.34	113.00
	ユーロ	124.58	121.66	120.00

* 2017年5月12日公表

1 売上高は前年同期比プラス

- ✓半導体・液晶市場、表面処理装置市場への設備投資がけん引し、アジア地域は前年同期比で大幅増
- ✓中国は、医療機器市場の需要増等で前年同期比で約4割増
- ✓欧州地域で新エネルギー市場の需要拡大
- ✓製品の短納期対応の施策効果が徐々に表れはじめる

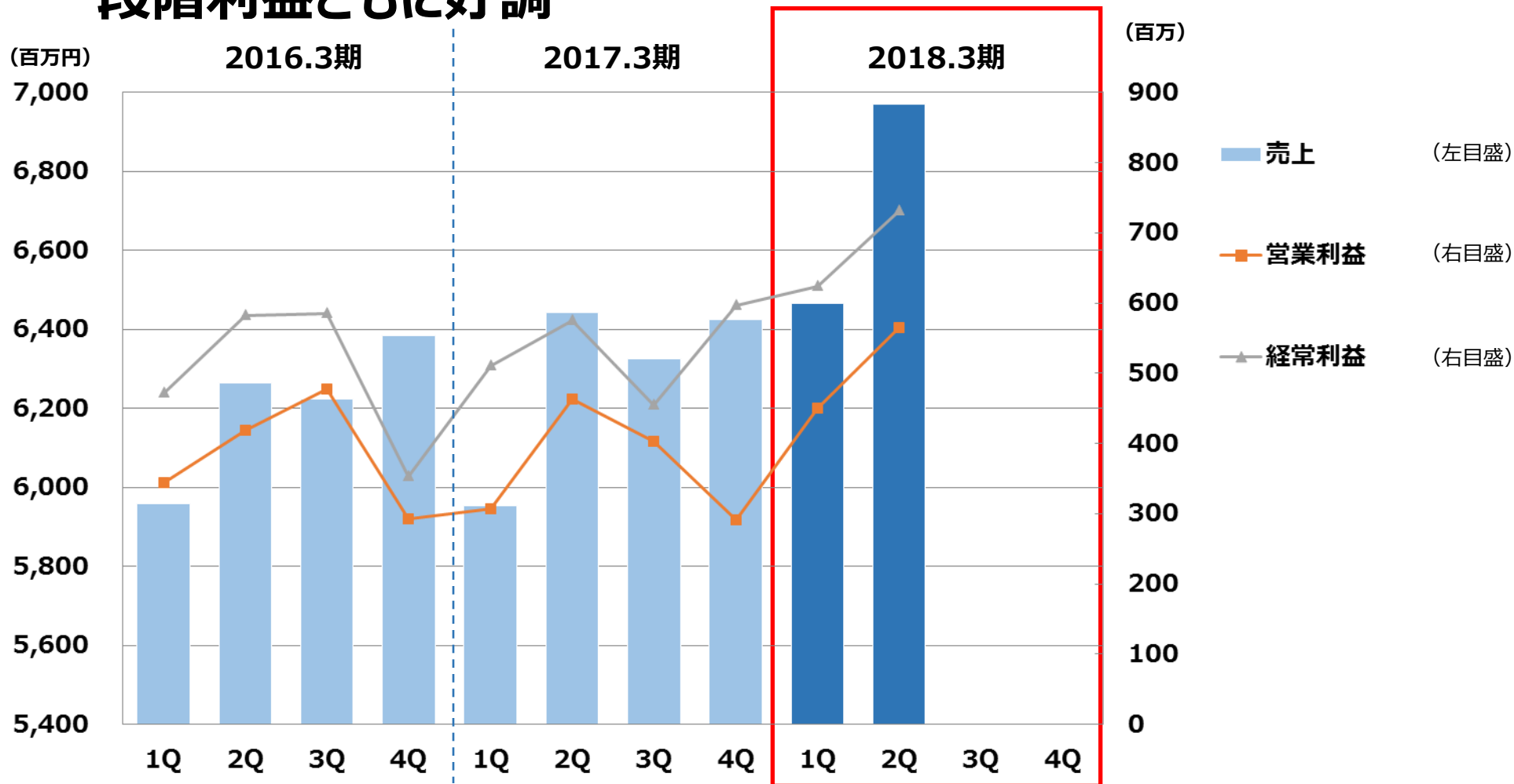
2 営業利益は前年同期比大幅プラス

- ✓売上増による増収効果
- ✓経費の見直し等により、営業利益率が改善
- ✓利益率が良い主力製品のマグネットポンプ、定量ポンプの堅調な伸び

3 経常利益は前年同期比大幅プラス

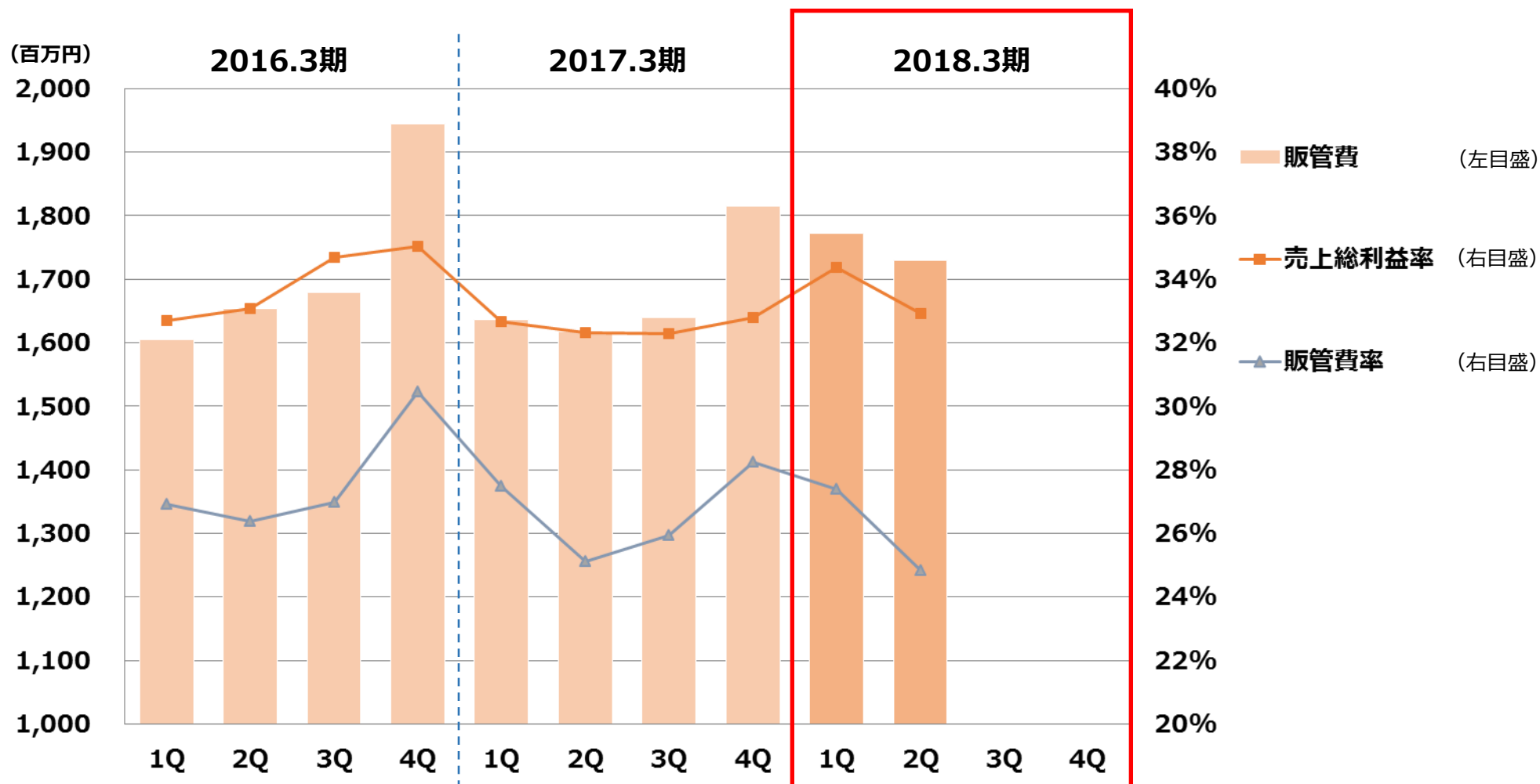
- ✓前年同期の特殊要因が消え為替差益が減少するもアジア中心に関係会社の好調が続き、経常利益は大幅増益

半導体・液晶市場、表面処理装置市場向けがけん引し、売上段階利益ともに好調



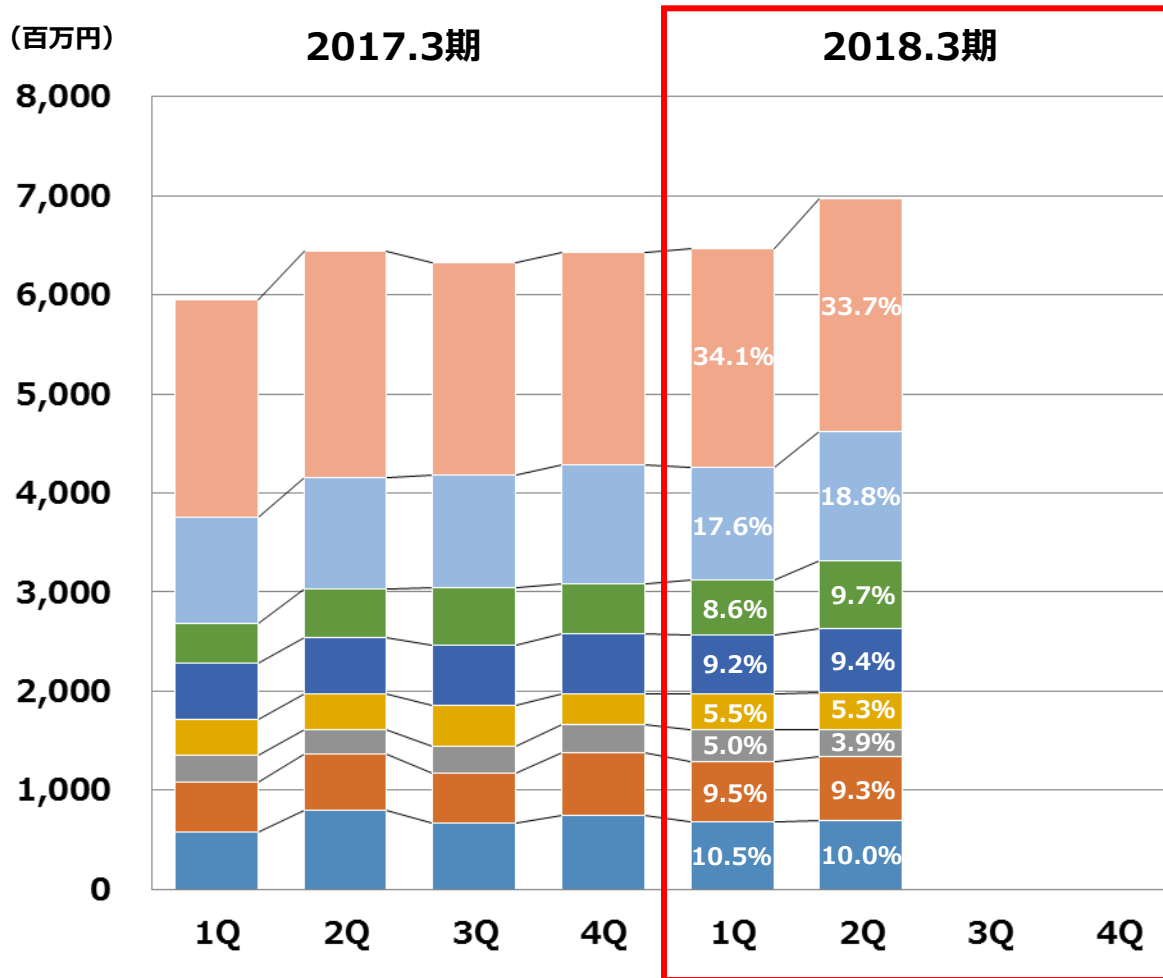
※ 2016/3期第1四半期、第2四半期は、連結財務諸表を未作成のため参考値となります。

増収効果で販管費率が低下。1Qの流れ引継ぎ、粗利率良



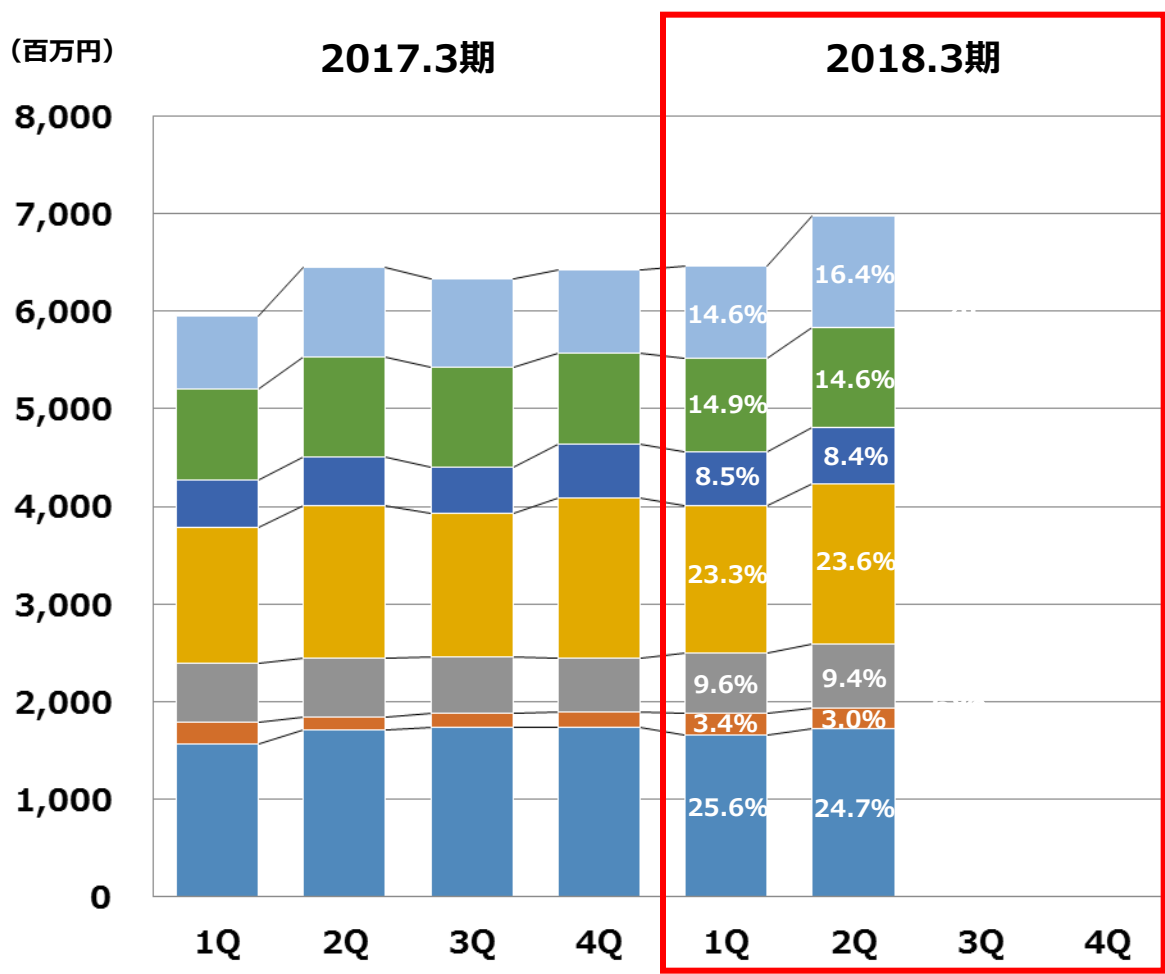
※ 2016/3期第1四半期、第2四半期は、連結財務諸表を未作成のため参考値となります。

空気駆動ポンプは1Qに続き大幅増、定量ポンプ、回転容積ポンプも好調



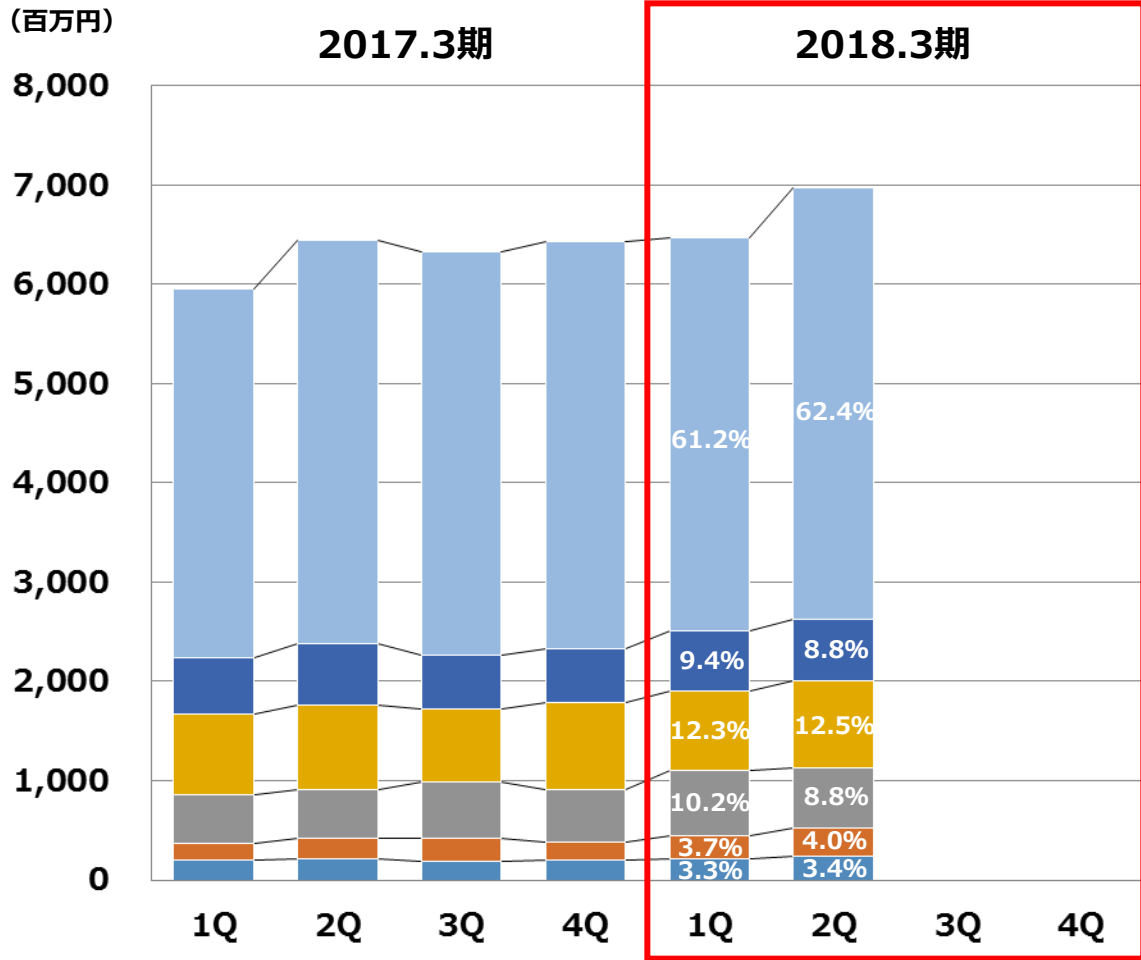
	2Q合計金額 (百万円)	変化率 (前期比)
■ マグネットポンプ	4,549	+1.2%
■ 定量ポンプ	2,449	+11.8%
■ 空気駆動ポンプ	1,231	+38.0%
■ 回転容積ポンプ	1,248	+10.4%
■ エアーポンプ	727	+1.4%
■ システム製品	594	+12.8%
■ 仕入商品	1,258	+17.8%
■ その他	1,376	+0.2%

半導体・液晶が大幅増、表面処理装置は好調

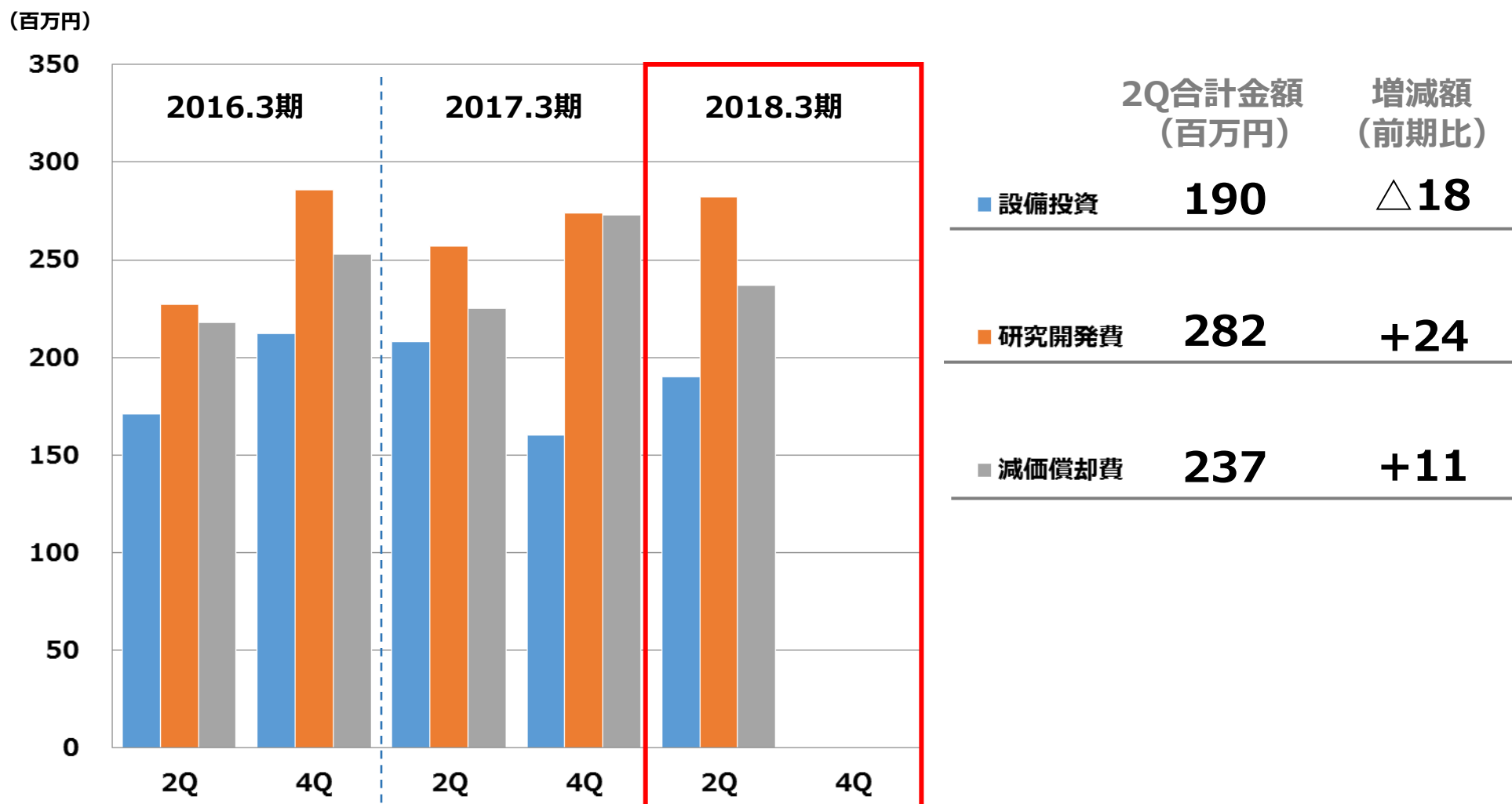


	2Q合計金額 (百万円)	変化率 (前期比)
■ 半導体・液晶	2,086	+25.7%
■ 医療機器	1,980	+1.3%
■ 表面処理装置	1,135	+13.7%
■ 水処理	3,152	+7.2%
■ 化学	1,277	+4.8%
■ 新エネルギー	424	+24.5%
■ その他	3,378	+3.0%

国内、欧、米は堅調、海外は1Qに続きアジア、中国が好調



	2Q合計金額 (百万円)	変化率 (前期比)
■ 日本	8,304	+6.8%
■ 海外計	5,131	+11.1%
■ ヨーロッパ	1,222	+2.8%
■ アメリカ	1,668	+0.9%
■ アジア	1,269	+27.6%
■ 中国	517	+42.5%
■ その他	453	+8.9%



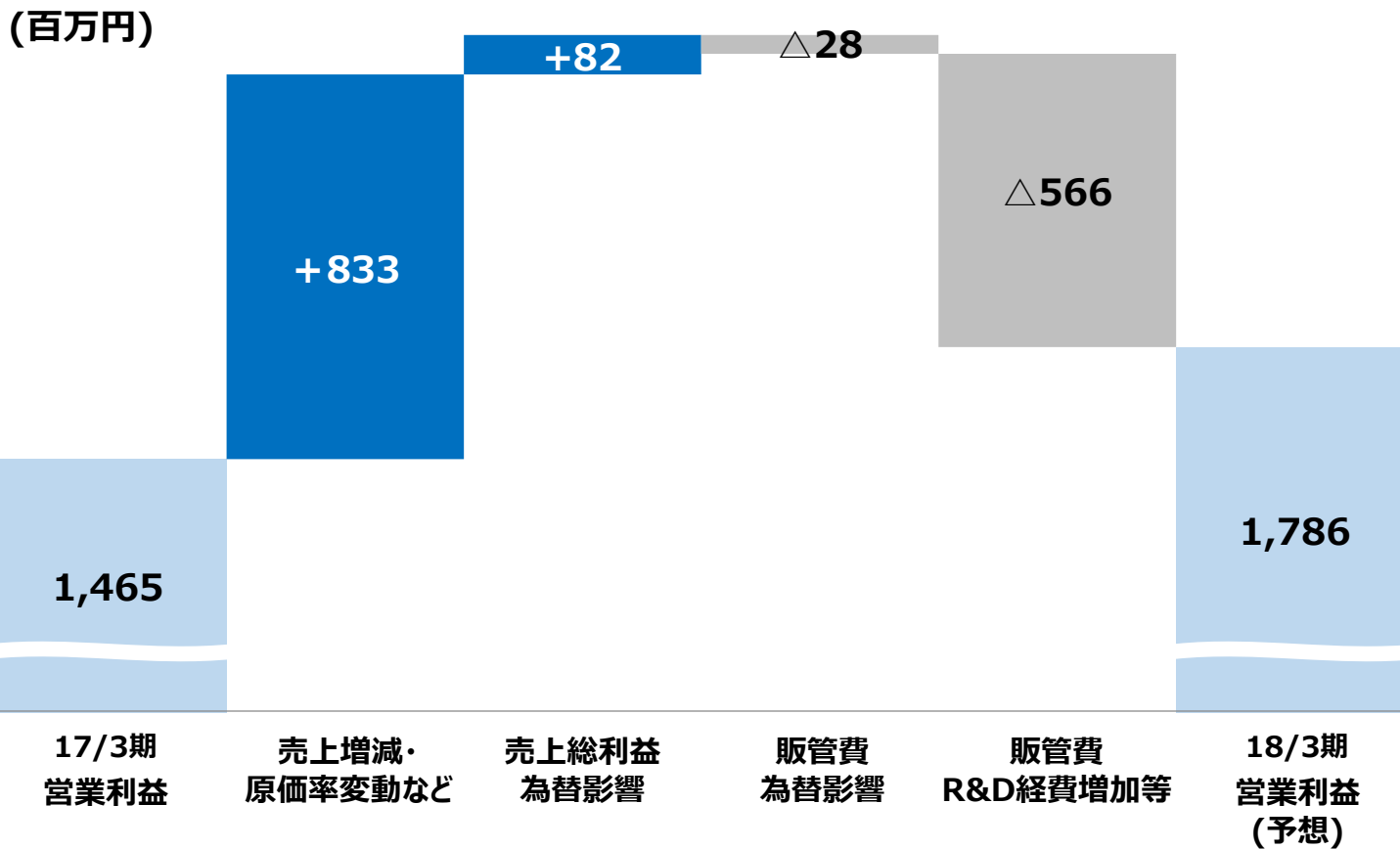


2018年3月期 業績見通し

半導体・液晶市場、表面処理装置市場向け好調持続の見込みで 上方修正

(百万円)

	2017/3期	2018/3期 (予想)		2018/3期 旧予想
		前期比	2Q進捗率	
売上高	25,146	26,838	+6.7%	26,517
営業利益	1,465	1,786	+21.9%	1,672
(営業利益率)	(5.8%)	(6.7%)	(+0.8pt)	(6.3%)
経常利益	2,136	2,290	+7.2%	1,969
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,690	1,735	+2.6%	1,450
1株当たり 当期純利益(円)	225.93	231.90	+2.6%	193.82
為替レート (期中平均)	ドル	108.81	107.00 <想定レート>	113.00
	ユーロ	120.30	128.00 <想定レート>	120.00



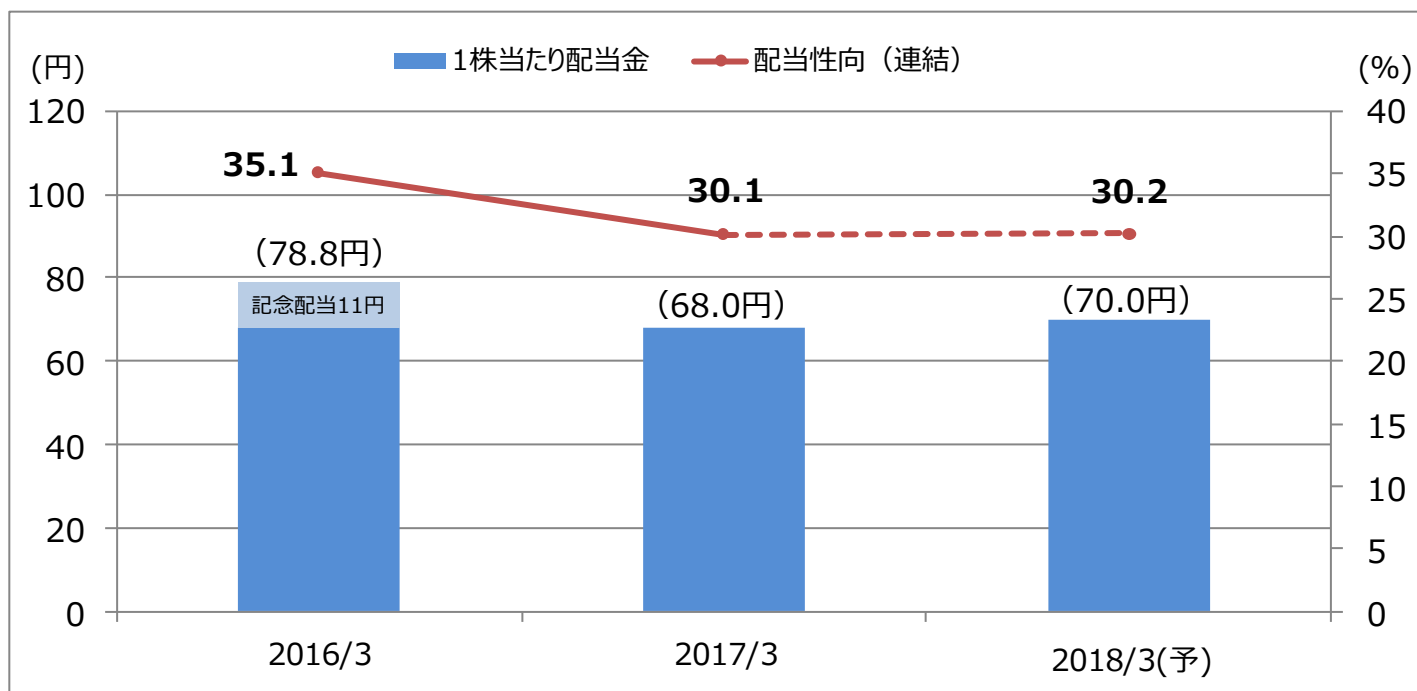
【市場環境の想定】

各市場	国内	海外
水処理市場	<ul style="list-style-type: none"> 水質管理は温浴・水耕・土耕装置が堅調 水処理プラントは低調 	<ul style="list-style-type: none"> 滅菌、薬液供給が堅調 環境問題でアジア中心に排水処理設備の投資拡大
半導体・液晶市場	<ul style="list-style-type: none"> 製造装置メーカー向け堅調 	<ul style="list-style-type: none"> アジアへの投資が当面は堅調
医療機器市場	<ul style="list-style-type: none"> 人工透析装置、臨床検査装置、内視鏡洗浄装置向けが堅調 	<ul style="list-style-type: none"> 中国向け生化学・免疫分析装置が堅調
新エネルギー市場	<ul style="list-style-type: none"> 家庭用燃料電池が横ばいで推移 	<ul style="list-style-type: none"> 二次電池の設備投資が旺盛 風力発電の欧州需要拡大
化学市場	<ul style="list-style-type: none"> 高付加価値製品の開発、製薬会社の投資需要継続 	<ul style="list-style-type: none"> 中国半導体向け純薬設備の投資拡大 自動車産業向け化学製品等は堅調
表面処理装置市場	<ul style="list-style-type: none"> 高付加価値電子部品の需要拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ハイブリッドやEV自動車生産増により堅調

※ 各市場の太字は当社強化市場

<基本方針>

- ・配当性向30%超
- ・継続的な配当





第一期～第二期中期経営計画について



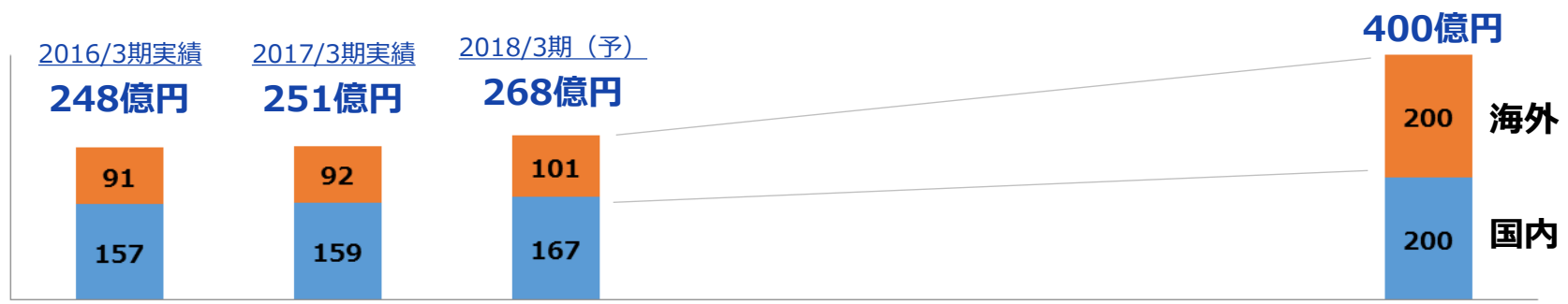
1

10年ビジョンの概要



連結売上高

定量目標



定性目標

オールイワキで世界No.1を提供する
 ～ グループ一丸となり、世界No.1の**製品、品質、価値、サービス**を提供する ～

目標を達成するための姿勢「チェンジ&チャレンジ」
 ～ 変革と挑戦に躊躇しない企業文化の定着を目指す ～

今中期経営計画は、10年ビジョン達成に向けた種蒔期～育成期

収益基盤の再構築～整備

- 10年ビジョン定量目標を達成するための基盤構築～整備
- 10年ビジョン定性目標に向けてのベクトルの統一化と、「チェンジ&チャレンジ」の企業風土の醸成～浸透
- 持続的な企業価値向上に視点を置いた経営の推進

● 10年ビジョン達成に向けたステップ



3 第一期 中期経営計画の主な進捗状況

		具体的計画の主な進捗状況	達成状況	今後の課題
国内営業		競合のSWOT分析を関連部門で共有化し、リプレイス	○	継続強化
		ソリューションビジネスの定着化のため、システム販売推進メンテナンスとの協業に依り差別化推進	△	関連部門の連携強化によるIoTの推進 シミュレーションテスト設備の充実化
		市場要求（納期）対応のため、短納期施策を実施	○	対応機種拡大
海外強化市場 （新規事業） 並びに	米国	水処理市場（飲料水・食品業界）の深耕 アクアティック事業※1の深耕	△	コントローラ販売チャネル強化 （アジア・新興国市場）
	欧州	化学・化工機プラント市場深耕、冷却の 需要掘り起し	△	全欧州にIE※2の販売戦略の浸透
	アセ アン	アセアン共通モデルの投入、統括本部設置と 域内物流コントロール拠点の構築～整備	×	整備～運用フェーズへ 強化市場を継続推進
	中国	医療機器市場を開拓	△	新エネルギー・水処理市場安定化
投資		IE※2生産設備投資実施、中国生産委託会社の開拓及び 部材調達を拡大	△	IE※2の設備投資を継続。中国での 委託会社開拓と部材調達拡大を継続
		業務提携、ポンプ周辺事業のM&Aを推進	△	継続に検討中

※1：小型魚類飼育水槽システム

※2：IWAKI Europe GmbH（欧州子会社）

達成率 ○：70%以上 △：70%未満～20%以上 ×：20%未満

● 連結損益計算書

	2018/3期(予想)			2019/3期(計画)			2020/3期(計画)		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
売上高	26,838	100.0	106.7	28,124	100.0	104.8	29,860	100.0	106.2
売上総利益	9,091	33.9	111.2	9,744	34.6	107.2	10,678	35.8	109.6
営業利益	1,786	6.7	122.0	2,261	8.0	126.6	3,075	10.3	136.0
経常利益	2,290	8.5	107.2	2,689	9.6	117.5	3,501	11.7	130.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,735	6.5	102.6	1,996	7.1	115.0	2,548	8.5	127.6

1 単体での堅調な増収見込みに加え、子会社の好調な増収見込みで連結のTop Lineは順調な伸びを計画

2 増収効果に加えて、2019年、2020年ともに粗利率の高い子会社の好調な増収計画により、営業利益率は連続して上昇の見込み

第一期～第二期 中期経営計画（2018/3期～2020/3期） （当初計画値との差異、変更点）

(百万円)

	当初計画値	2018/3期(予想)		当初計画値	2019/3期(計画)		2020/3期(計画)
	金額		増減額	金額		増減額	
売上高	26,724	26,838	114	28,519	28,124	▲394	29,860
売上総利益	8,880	9,091	211	9,518	9,744	225	10,678
営業利益	2,113	1,786	▲326	2,561	2,261	▲300	3,075
経常利益	2,552	2,290	▲262	3,014	2,689	▲324	3,501
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,779	1,735	▲44	2,105	1,996	▲109	2,548

1 今期は、半導体・液晶市場が好調な見通しのため、当初計画比売上高は増加、来期以降不透明な見通しのため、減少を見込む

2 今期は、高粗利率のTEC※1子会社化により、粗利は当初計画値より改善を見込み、アクアティック事業、海外生産体制強化の先行投資や研究開発部門の人員強化により営業利益は減少（種時期のための先行投資）

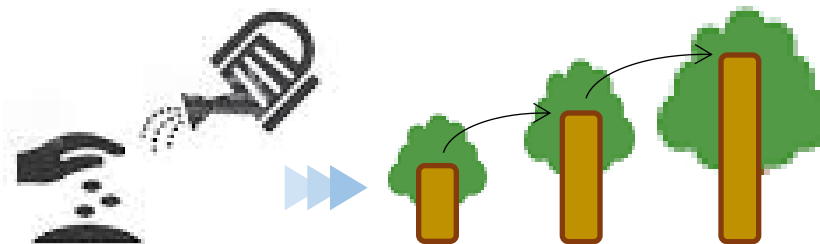
3 今期は、半導体・液晶市場の好調な見通しを反映し、アジアの関係会社からの営業外利益は、当初計画値より増加

※1：テクノエコー株式会社

- ①強化市場(医療機器市場、新エネルギー市場、水処理市場)
への経営資源の優先的投入～効果測定 ⇒ 製品開発の効率化を図る
- ②継続して顧客対応力を強化し、ソリューションビジネスを展開～推進
- ③新規事業のビジネスモデル構築～整備
- ④欧州地域の拡大に加え米国・アセアン地域の市場動向に合わせた販売
戦略の策定・実行、および価格競争力と顧客対応力の向上実現

国内営業

- 競合リプレイス需要の獲得
- ソリューションビジネスの定着化と深耕
- 市場要求(製品、部品、納期等)対応
- 顧客向けIOTの推進



海外各市場における強化市場（新規事業及び注力市場）

- 米国…水処理、医療機器、（アクアティック事業、**化学・化工機プラント**）
- 欧州…水処理、化学・化工機、冷却、（アクアティック事業）
- アセアン…水処理、表面処理装置、化学、医療機器、（アクアティック事業）
- 中国…医療機器、新エネルギー、水処理
- **韓国・台湾地域…水処理、新エネルギー**

投資について

- 欧州子会社生産設備の強化、中国生産委託会社の拡大、物流関連強化
- 事業の拡大に向けた業務提携、M&Aの検討

テクノエコー株式会社が残留塩素計を軸としてクロスセルを展開

グローバル展開

- アジア地域の上水道インフラ整備 ▶▶ 残留塩素計の需要拡大
- イワキの海外ネットワーク（販売・サポート体制）の活用



新たな市場での実績（シナジー効果）

- 小型残留塩素計 → 福祉市場（介護風呂）の需要拡大
→ 医療機器市場（医療機器組込型）の需要増
- イワキのポンプ品質、販売網と残留塩素計の特殊技術の組合せ

既存市場の拡大

- オリンピックに向けホテル建設ラッシュ等 ▶▶ 温浴施設での残留塩素計の需要拡大
- イワキの国内ネットワーク（販売・サポート体制）を利用した販売増加

部材調達

- 中国国内での部材調達を拡大中
- 製造原価ダウンと日本同等品質の維持



生産委託会社

- 生産委託を2018年に稼働予定
- 地産地消の推進



流通経路の簡略化による納期短縮

グローバル展開

- グローバル市場を見据えたマーケティングを実施
- 米国市場での引合い増加、実績増
- グローバルモデルの構築



分業と協業化

- 設計、生産、営業、サービスの各国での対応
- 使用可能部材の共有化



日本市場の拡大

- 医療・医薬分野での応用
- 米国技術のフィードバック ▶▶▶ 国内外の競合他社製品との差別化



参考情報

要約貸借対照表

	2017年3月期末		2018年3月期2Q		前期比 増減率
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	19,832	75.5%	20,978	76.3%	1,146
現金・預金	6,191	23.6%	6,541	23.8%	349
受取手形・売掛金	8,423	32.1%	9,029	32.9%	605
その他	5,217	19.9%	5,407	19.7%	190
固定資産	6,421	24.5%	6,499	23.7%	77
有形固定資産	3,724	14.2%	3,760	13.7%	36
無形固定資産	223	0.9%	210	0.8%	▲13
投資その他の資産	2,473	9.4%	2,528	9.2%	54
資産合計	26,253	100.0%	27,477	100.0%	1,223
流動負債	7,031	26.8%	7,460	27.2%	429
支払手形・買掛金	4,345	16.6%	4,725	17.2%	379
短期有利子負債	651	2.5%	740	2.7%	89
その他	2,034	7.7%	1,994	7.3%	▲39
固定負債	2,315	8.8%	2,331	8.5%	16
長期有利子負債	406	1.5%	414	1.5%	7
その他	1,909	7.3%	1,917	7.0%	8
負債合計	9,347	35.6%	9,792	35.6%	445
純資産合計	16,906	64.4%	17,684	64.4%	778
負債純資産合計	26,253	100.0%	27,477	100.0%	1,223

(百万円)

売上増による売掛債権の増加

短納期対応施策による在庫増

売上増による仕入債務の増加

(百万円)

	2016年4-9月 金額	2017年4-9月		主な要因
		金額	増減額	
営業活動によるCF	1,020	746	△273	売上債権の増加。 カレンダー要因 (9/末休日)
投資活動によるCF	896	△146	△1,042	前期の有価証券の償還等の 特殊要因消滅
財務活動によるCF	△651	△265	386	配当金の支払い額 (2016.3 期は期末1回、2017.3期は半 期毎に1回)
現金・現金同等物の増減額	1,148	349	△798	
現金・現金同等物の期首残高	5,426	6,111	685	
現金・現金同等物の期末残高	6,574	6,461	△113	

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

- この資料は投資家の参考に資するため、株式会社イワキ（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、2017年11月29日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【お問合せ先】

E-mail : ir@iwakipumps.jp
TEL : 03-3254-2931
受付時間 : 9時～17時30分